

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	特定非営利活動法人ミラマーレ・オペラ
公演団体名	ミラマーレ・オペラ

内容
<p>主指導者、歌手2名、ピアニストで行います。体育館の設営されたアクティグエリアを使用し、凡そ1時間でミニ・コンサートと「おこんじょうり」の概要説明とリハーサルを兼ねての体験実習をします。</p> <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none">1. 指導者紹介の後、生の歌声とピアノの演奏でミニ・コンサート。オペラ歌手が児童生徒の間近で有名なオペラ・アリアなどを歌います。その後、発声と表現法のワンポイント・レッスンから歌唱指導へ繋がります。2. オペラ「おこんじょうり」の内容説明と、児童生徒の役どころと登場シーンの説明をします。3. 登場シーンを一連の流れで練習し、キャストと一緒に最終リハーサルに結びつくように締めくくります。4. 事前の遠隔によるレクチャーも考慮しております。



タイムスケジュール（標準）
本番当日 8:00 搬入と舞台設営 10:00-11:30 参加生徒のためのリハーサル（対面によるワークショップ） 13:30-15:00 公演本番

派遣者数
主指導者1名、歌手2名、ピアニスト1名の計4名（同行しているキャスト・スタッフの中より選出）

学校における事前指導
a. 本番当日の午前中のワークショップでは、動きやすい服装、水分補給用の飲み物等をご準備頂くようご指導下さい。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	特定非営利活動法人ミラマーレ・オペラ
公演団体名	ミラマーレ・オペラ

演目

オペラ「おこんじょうり」
作曲: 林光
原作: さねとうあきら
台本: 若林一郎
演出: 三浦安浩
振付: 三浦奈綾



公演時間(凡そ 70 分)

派遣者数

歌手 4 名、ピアニスト 1 名、打楽器奏者 1 名、舞台スタッフ 2 名、照明スタッフ 3 名、衣裳メイクスタッフ 1 名、演出家 (または演出助手) 1 名、制作 1 名、運送担当 1 名
計 15 名

タイムスケジュール (標準)

8:00-10:00 学校到着。搬入と舞台設営準備
10:00-11:30 生徒登場シーンのリハーサル (対面によるワークショップ)
11:30-13:30 舞台設営の最終調整、キャストは衣裳メイク準備、昼食など
13:30-15:00 本番
15:00-16:30 撤収、積み込み、清掃と最終確認
17:00 退校

実施校への協力依頼人員

直接上演に関わる事に関しては特段必要としませんが、生徒の円滑な誘導やその他で 5~8 名程度お願いする場合があります。リモート、メール、電話での事前打合わせで確定して依頼をいたします。

演目解説

わが国を代表する作曲家である林光が、さねとうあきらの原作(1974)、若林一郎の台本により作曲した1幕のオペラです。1974年に初演されています。

登場人物はおこん(ソプラノ)ばばさま(アルト)ごんすけ(テノール)じんざ(バリトン)の4人の歌手です。

人里離れた山奥に一人で住む盲目のイタコの老婆と、そこへ食べ物を盗みに来た1匹の子ギツネの心の交流と、欲に目がくらんだ人間の愚かさを描いた佳作です。

国際化が進む現代社会では人種や文化の違いによる問題が世界規模で多発しています。また貧富の差は我が国においてもますます広がる傾向にあり、その問題は学校内のいじめなど様々な形で顕在化していると思われます。

「おこんじょうり」は目の不自由な老婆が子ぎつねに愛情を注ぐようになる過程を通し、私たちが、もっと外見にとらわれずに他人に接してゆくことによって、多くの人と気持ちを通じ合わせることができる事を伝えられる作品です。

また、物語の終盤で子ギツネのおこんが無惨にも殺されてしまいますが、それを目の当たりにした猟師が、もう生き物を殺す事は決してしないと誓う感動のフィナーレで、命の大切さを伝えます。

オペラはイタリアやドイツなどの外国の芸術作品と思われがちですが、日本にも素晴らしい作品が数多くあります。優れた「メイド・イン・ジャパンのオペラ」に触れて頂き、磨き抜かれ朗々と響くオペラ歌手のマイクを通さない生の歌声、そして日本語で歌われるこの作品を是非とも味わって頂きたいと願っています。

<演出家のノートから>

「呼びかけ と 答え」

このオペラにはなんと多くの「呼びかけ」があることでしょう。そしてそれに対する「答え」もまた数多くあります。

お腹をすかせた狐のおこんは、山の中の一軒家へやって来て、その家に一人で住むばばさまの食べ物を盗もうとします。おこんは、目の見えないばばさまが「キツネ！」と自分の正体を言い当てるので驚きます。ばばさまは、おこんが不思議な神通力で腰痛を直してくれたことに感謝しておこんと手を取り合います。ばばさまは現実の世界を目で見ることはできませんが、それは物事の真実を見極められないということではありません。むしろ、彼女の「心」の判断力は研ぎ澄まされているのです。おこんとばばさまは親しみを込めて「ばばさま」「おこん」と呼び合い、そこには人間と動物というカテゴリーの違いを超えた愛が生まれます。

そこで、少し考えてみましょう。私たちは、誰にどのように呼びかけられ、そしてその呼びかけにどのように答えているのでしょうか。誰かの思いのこもった呼びかけに「不安」のフィルターをかけてしまい、その呼びかけの中にある愛を見過ごしていることはないでしょうか。そして「不安」や「憎悪」の思いで誰かの名前を呼んでいることはないでしょうか。呼びかけには力があるのです。国籍、人種、文化、宗教、性の違いが多くの対立を生んでいる現代、私たちはこの世の中にあるたくさんの切実な呼びかけに心を開かなければならないと思います。できるだけたくさんの愛のこもった呼びかけをしようではありませんか。そうすれば、私たちの心に、きっとおこんのような新しい仲間たちからの声が聞こえてくるに違いないと思うのです。



児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

主役のキツネはキャストが演じますが、その他の子ギツネを演じて頂き、物語上での出来事に簡単なリアクションをする等、観客に内容がより良く伝わるための重要な役割で参加して頂きます。また、物語の途中で、状況を説明するカタリ役として参加して頂きます。男女比や参加学年は問いません（台本や衣裳はこちらで用意いたします）。

児童生徒とのふれあい

公演前と終演後の限られた時間を有効に使って、生徒達との絆を深める努力をします。具体的には養生シートの設置や椅子の配列の手伝いなど危険のない作業を手伝って頂く。本番当日の最終リハーサル終了後はメイクアップの見学（希望があればメイク体験なども）、小道具や照明機材の説明を受けながらのバックステージツアーなども可能です。また、終演後にはステージを使っての記念写真の撮影や出演した生徒やその他の希望生徒さん達とキャストの代表数名とで交流会などを行う準備もあります。

